

# AGU NEWS

青山学院大学

Vol.  
10

AGUニュース第10号  
[2001年12月～2002年2月号]  
青山学院大学・広報入試センター広報課  
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25  
TEL.03-3409-8111(代表)  
URL <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



クリスマス・ツリー点火祭(青山キャンパス)

特集  AOYAMA  
GAKUIN  
UNIVERSITY

第10号「特別座談会」青山学院の将来構想  
発行記念 総合研究所の“改革”がスタート  
クリスマス・ツリー点火祭  
硬式野球部2選手がヤクルトから同時指名

## TOPICS

秋光教授が「紫綬褒章」受賞!  
機械創造工学科から生まれたエコ・カー

## 報告・お知らせ

2教授、秋の園遊会に招待される  
2001年度父母懇談会開催報告  
誌上公開講座 Vol.10  
アジアの政治  
—新世紀のアジアと日本の関わりを考える—

## INFORMATION

春期休業中の窓口案内  
新年度書類配布について  
大学学費納付について

# 青山学院の将来構想



理事長 羽坂 勇司



院長 深町 正信



学長 半田 正夫



副学長 辻 正重 (司会)

**新しい世纪の中で、わが国の大学は一大転換期を迎えています。**  
**2001年に、創立127周年を迎えた青山学院では、**  
**大学改革の大きな節目となる「相模原キャンパス」開学をはじめ、**  
**私立大学最初の専門大学院開設、**  
**ロースクール構想や第二部改組、さらに青山キャンパス再編成……など、**  
**積極的に新しい大学づくりの動きが始まっています。**  
**そこで今回は、辻副学長(総務・広報担当)の司会のもとで、**  
**青山学院のトップ3名(羽坂理事長、深町院長、半田大学長)に、**  
**今後、本学が進むべき道をテーマに**  
**フランクな雰囲気の中で語りあつていただきました。**

た苦労や、本学の教育に役立ってきたことを思うと、手放すのは本当につらいんです。ただ、アクセスの面などで、学生のみなさんに快適なキャンパスライフを過ごしてもらうためには克服できない不都合がいくつかありました。2009年の大学全入時代に向けた本学の競争力を考慮した場合、法人サイドとしてはこのままではいけないという問題意識があり、ついに厚木キャンパスの移転を決意することになったのです。

司会 新キャンパスの候補地はすぐに見つかったのですか。

理事長 それがなかなか見つからなかったのです。綱島グラウンドの代替地を探している時、偶然にも新日本製鐵の研究所移転の話が舞い込みました。調べたところ交通アクセスもよく、駅にも近い。土地の広さも十分でした。そこで大学執行部の方々ともよく協議した結果、土地購入の運びとなったわけです。

ほんとうに運が良かったというか、まさに本学の発展のために神のご意志が働いたというのが偽らざる実感ですね。

学長 私たち大学執行部は、法人本部の意向を受けまして、早速、全学部の代表者を集めた「新校地基本計画委員会」を組織して、新しいキャンパスをどのようなものにするかの検討作業をはじめました。基本的なスタンスとしては、せっかく素晴らしい校地を与えられたわけですから、計画全体を厚木からの撤退というマイナスマージでは決して考えたくなかった。あくまでも「21世紀に向けた青山学院大学の積極的な発展を考えいく」という前向きな趣旨で臨みました。そのために新キャンパスに大きな付加価値をつける必要があります。委員会での各学部の先生方

との話し合いの中で各学部よりほんとうにたくさんのプランが出されました。そして、それらの案を一つひとつ丹念に検討していく、結果として理工学部が大学院を含めて全面移転し、厚木で学んでいた人文・社会科学系学部1~2年生と同じキャンパスで学ぶということになったわけです。

司会 すなわち「文理融合型キャンパス」ですね。

学長 ええ、本学に限らず多くの総合大学では、理工系学部が孤立して存在しているケースが多いです。しかし、コンピュータとネットワークのテクノロジーを中心にした今後の高度情報社会の行方を考える時、教育機関としてこれは決して望ましいことではありません。

司会 文理融合型キャンパスのメリットは、ど

のような点にあるのでしょうか。

学長 大きく言えば、人文・社会科学系学部と理工学部の学生と教員が同じキャンパスを利用し、交流を深めることによって新しい学問の発展が可能な土壤ができるということです。さらに、もっとわかりやすい部分で言えば、夜遅くまで実験などに励む理工学部学生は人文・社会科学系学部学生に大きな刺激を与えるでしょう。また、理工学部生も人文・社会科学系学部の学生との交流の中で、多様な価値観を知り、豊かな人間性を育むことができると言えています。

司会 新キャンパスに設置を予定している文理融合型の新学部についても、お話を伺いたいと思います。

理事長 今、学問が社会的な要請に対応しようとすると、従来の文系、理系の枠を必然的に超えるを得ない状況にありますね。新学部設置構想は、その点から言っても当然

のことではないかと、私は考えているのですが。

学長 そうですね、私たちはむしろそうした時代を先取りした教育研究を行う学部にしていきたいと思っています。今、「新校地基本計画委員会」内に設置された「文理融合型の新学部の検討作業部会」が精力的に新学部の基本構想を策定しており、その成果が去る10月3日に中間報告という形でまとめられました。それによると時代の要請と本学の伝統を生かす形で、たとえば「アート創造」、「生命倫理」、「言語コミュニケーション」、「健康スポーツ」などを目玉にしたりペラルアーツ的な学部が提案されています。ただ、新学部構想は、今後の全学共通教育や第二部のあり方とも関わってくる問題ですから、全学的な視野で、そして多くの方々から意見を吸収しながら、具体的に検討していかなければなりません。

## ●相模原キャンパス・5つのコンセプト

司会 では、新キャンパスの全体的なコンセプトについて説明していただけますか。

学長 5つあります。まず、「高度情報型キャンパス」。いわゆるサイバーキャンパスですね。最新のコンピュータ・ネットワーク環境を整備し、青山キャンパスとの遠隔授業やTV会議などを試みるほか、国内外の大学研究機関とのサイバーネットワークを整備していく予定です。次にグローバル化をふんだんに「国際交流型キャンパス」。海外からの研究者、学生の受け入れをより積極的に展開したい。将来はインターナショナルハウスの設置も考えています。そして「地域共生型キャンパス」。今回の新キャンパス設置を相模原市の熱心なバックアップを抜きにして語ることはできません。こうした期待に応える意味でも、さまざまな面で地域社会と共生、協調を目指します。キャンパスもオープンにして、住民の方々が図書館等の施設も利用できるようにしていくつもり



です。

司会 すでにさまざまな地域との連携の動きが始まっていますね。

学長 ええ、今年の10月の公開講演会、11月のシンポジウム、12月のフェスティバルと、相模原市と提携した企画を開催しています。このうちシンポジウムは「青山学院大学は相模原市にどのように貢献できるのか」というテーマで行われました。私も出席ましたが、地元商工関係者、市長、助役をはじめとする行政関係者、地域住民との活発な意見交換が行われ、これらの方々の本学への大きな期待を身をもって感じました。こうした地域と連携した行事は、今後も継続的に実施していきます。

司会 理工学部が持つ「技術」に対する、地元企業の期待も高いですね。相模原市産業創造開発センターを通して、理工学部として地元産業のためにお手伝いできることはありますかと声をかけたら、すぐに30社ほどの企業から問い合わせがあったとか。

学長 産業界のみならず、地域の高校など教育界との連携も考えていくべきテーマです。相模原市というのは住民の平均年齢が若く、少子化の時代にもかかわらず学校教育が活況を呈している地域であるわけで、地元高校との単位互換など、こうした地元のニーズに

応えていくためのプランも練っています。

院長 広い視野で地域との共生ということを考えていくと、生涯教育への取り組みも考慮しなくてはなりませんね。

学長 もちろんです。公開講座の充実に努めるほか、図書館やスポーツ関係の施設設備を地域住民の方々へ開放することによって、生涯教育の場を提供できるでしょう。今後もきめ細かく地域の方々の生涯教育に対するニーズをくみ取っていくようにしていきたいと思っています。

司会 実際、11月のシンポジウムでも、本学の生涯教育の取り組みへの期待の声の大きさはとても印象的でした。

学長 そして4番目は「環境共生型キャンパス」。敷地内の樹木を生かし、緑豊かなキャンパスになります。樹木は炭酸ガスを吸収してくれるわけですから、キャンパスに緑が多いこと自体がエコロジーの考え方方に基づいているわけですね。さらに敷地内の地下水の活用や建物設計面での省エネ構造など、先進的な試みを随所に盛り込んだエコキャンパスが誕生します。

理事長 新キャンパス全体にわたってエコロジーの思想が徹底されているわけですね。

学長 ええ、そして5番目に地球環境と共に「人にやさしいキャンパス」であるとともに、新キャンパスの重要なコンセプトです。ラウンジ、広場、インターネットカフェなど、学生同士・学生と教員のコミュニケーションを想定したスペースをふんだんに設け、「学生が少しでも長くいたいと思うキャンパス」を目指し、ハード面、ソフト面の環境整備をしていきます。

理事長 学生の動線を考えたキャンパス施設設備の便宜性、気ままに語り合えるスペースの設置、またコンピュータ・ネットワークを気軽に使える情報環境……確かに新キャンパスはこうした点を十分に踏まえて設計されていますね。理事会としては、事務セクションに関して、学生が利用しやすいシステムの実現をお願いしております。

学長 新キャンパスの中心部には本学の知的情報の中核を担うメディアセンターがあります。その上層階には研究室、図書館、情報処理系の教室、外国語ラボラトリー、共同研究室



ガウチャーメモリアルホール Executive Meeting Room にて



などが設置されますが、1階は学生生活の窓口になるスチューデントセンターになっています。ここに事務機能を集約し、大抵の用件はすぐむようになっています。しかも、学生が利用しやすいサービスのソフト面での配慮も十分に検討しました。

**司会** メディアセンターと共に、新キャンパスの中心部に位置し、シンボルとなる建物に礼拝堂があります。青山キャンパスではガウチャー・メモリアル・ホールの新しいチャペルが完成ましたが、相模原キャンパスの礼拝堂はどうのようなものになるのでしょうか。

**院長** 最初に理事長がおっしゃっていたように厚木キャンパスの施設は素晴らしいもので、特に礼拝堂は神奈川県の名建築百選に選ばれたほどの建造物です。

**司会** ちょっと、もったいない話ではありますね(笑)。

**院長** そうなんです。ですから相模原キャンパスの礼拝堂は、ステンドグラスを移設するなど、できるだけ厚木を受け継ぐ形で、しかも厚木に勝るとも劣らない素晴らしいチャペルにするつもりです。

#### ●第二部改組への取り組み

**司会** 相模原キャンパス開学と共に、青山キャンパスでもさまざまな改革に着手しています。中でも第二部の改組は、少子化による受験生の減少という緊急の課題を含んでいるわけですが。

**学長** 第二部をどうするかという問題は、ずいぶん以前から議論されていたことです。現在は相模原キャンパス開学と合わせた改革案の検討が進んでいます。プランを練るにあたっては、他大学の二番煎じではなく、しかも現在の教員スタッフでできることを条件にしています。まだその成果を発表できる段階ではありませんが、かなり斬新な案ができつつあるようで、できるだけ早く結論を出すつもりです。

**理事長** 現状の第二部は確かに需要が減っており、変えていかなければならないことは事実です。ただし一方で、教員免許取得の面など、まだまだ存在意義があるのではないかとも思うのですが。

**院長** そうですね。そしてこの問題を考える時、青山キャンパスが都心で働く人々がスキルアップを図る場として絶好のロケーションであることを忘れてはいけないと思います。理事長がおっしゃった教員免許取得などのニーズに対して、一度しっかりしたマーケティングリサーチを行って、その存在意義を改めて確認してみる必要があるのではないかと思うが、

経営の論理だけでなく教育の論理として、すなわち大学のミッション(使命)として第二部の存在意義を考えてみることも必要であると考えます。

**学長** おっしゃる通りです。そうしたご意見を総合的に勘案して、大きな視野から第二部改革を考えていいくつもりです。

#### ●青山キャンパス再開発

**司会** 理事会では、幼稚園から大学・大学院を含めた総合的な青山キャンパス再開発を検討されていますね。

**理事長** ええ、第二次将来計画委員会を編成しまして、すでに2年以上も地道な検討作業を続けてきました。おそらく来年には何らかの結論を印刷物として、学院関係者に配付できると思います。

**司会** 青山キャンパス再開発を考える際にご苦労されている点が多くあると思いますが。

**理事長** たくさんありますよ(笑)。相模原の場合は、白いキャンパスに絵を描くように、新しいキャンパスの構想を自由に描くことができたわけです。しかし、



青山キャンパスの場合はそうはいきません。キャンパスの歴史的経緯を踏まえることも大切ですし、いろいろな制約もあります。しかし現状では、土地利用の面でかなりもったいない使い方をしていることは否定できません。

幼稚園から大学までをどこにどのように配置していくか……今や教育の面からの思い切った見直しをするべき時期に来ていると思います。

**院長** 素晴らしいですね。最近、初等部から高等部を通した英語教育のカリキュラムを作成する際に、大学の先生方のバックアップをお願いしましたし、高等部、中等部、初等部と大学との連携を、カリキュラムやティーチングメソッドなどの面でこれからも積極的に進めたいましょう。そして全学院的な立場からいって、大学の充実発展は、高等部、中等部、初

学院までを有する教育機関であることを積極的に生かしたキャンパスの再開発を行うことが大切ではないかと思っています。そして、そのことが結果的に他大学を卒業した人間とは違う“青山スピリット”を培う土壤を作ることになるのではないでしょうか。現在、月1回の常務委員会の後、幼稚園から大学までの責任者が、教育面での連携について話し合っています。決して長い時間ではないのですが、その場では何でもないフランクな会話の中でとても大事なことが語られています。こうした機会をもっとオープンな形で展開すれば、青山キャンパスの将来像につなげていけるのではないか……。少々抽象的な話になりますが、高い理想を掲げつつ、地道に現実との狭間を埋めていく作業を続けることこそが、青山学院の発展のために必要なことだと……。

**理事長** そうですね。現在、教育制度の規制緩和などにより、中高の一貫教育だけでなく、幼稚園と初等部、あるいは初等部と中等部の連携などがどんどん進められる状況になりそうです。今、院長がおっしゃられたことにに関して言えば、良い環境が整いつつあります。

**学長** 青山学院の一貫教育ということを考えると、実は残念ながらこれまで高校と大学の教育面での目立った連携はなされていませんでした。そこで現在、なんとか「高大連携」を実現しようと、連絡会議を定期的に開催しています。まず第一段階として、2004年度から毎週土曜日に大学の教員が高等部で講義をすることが決まっています。また、大学の開講科目の中にも高校生に十分理解できる講義もありますから、そういう科目を選んで高等部生に開放し、単位を与えることも考えています。さらに相模原キャンパスの話でも言いましたが、外部の高校生にも本学の講

義を開放することなどを検討しています。高大連携への道筋が、今ようやく築かれつつあります。

**院長** 素晴らしいですね。最近、初等部から高等部を通した英語教育のカリキュラムを作成する際に、大学の先生方のバックアップをお願いしましたし、高等部、中等部、初等部と大学との連携を、カリキュラムやティーチングメソッドなどの面でこれからも積極的に進めたいましょう。そして全学院的な立場からいって、大学の充実発展は、高等部、中等部、初

等部、幼稚園の教育までに関係してくることだと考えています。今までの日本の教育界というものは「入口」と「出口」だけを問題にしてきました。どれだけ偏差値が高いか、就職が良いとかの基準だけで、学校の価値を捉えてきたくらいがあります。しかし、これからは入口から出口までのプロセス、教育・研究の内容が問われる時代です。そういう意味で学長先生がかねがね口にされている「日本一の大学」という高い志をめざした大学改革がスタートするのは青山学院全体に、大きな力と希望を与えてくれる出来事だと思います。

#### ●ロースクールと専門大学院構想

**司会** 大学では、現在ロースクール設置の動きも始まっていますが、その取り組みについて学長に伺いたいのですが。

**学長** 現在、法学部の先生方が力を合わせて、カリキュラムや教育システムの検討作業を精力的に行っており、私としてもロースクール設置は何としても実現させなければならない課題と考えています。

**院長** 法学部が現状維持を続けていけば、おそらく遠からず時代状況から取り残されてしまうわけで、ロースクール設置には全力であたってほしいですね。キリスト教の影響が強い欧米の法体系の中では、人権、自由、人間の精神がその骨格をなしています。これらは本学の教育におけるベースとなる命題であり、そのように考えると青山学院大学のロースクールでなければ、できないこと、学べないことが随分あるんじゃないかなとも思いますね。ぜひ、他大学の追随を許さない個性あるロースクールにしていただきたい。設置に至る道のりには困難もあるでしょうが、むしろチャレンジをエンジンのチャンスにする気概で取り組んでください。

**学長** ありがとうございます。まだロースクールに関する文部科学省の基本方針が出ていないので、具体的なプランは発表できないのですが、2004年度設立をめざし計画は着々と進捗しております。同時に、経営、経済学部でも高度職業人育成のために専門大学院の設置の動きがあります。そして社会人をも対象としたこうした専門大学院を作るにあたって、第二部でも話に出ました青山キャンパスの地の利が大きなアドバンテージになっています。他大学が都心にサテライトキャンパスを作っている中、本学ではそんな必要はまったくないのですから。

さらに、大学院改革や第二部改組と連動して既存学部の再編成を根本的に考え直さなければならない時期に来ています。

#### ●青山学院大学「人間教育」の今後

**司会** さて、最後に、本学のキリスト教に基づく人間教育が、新しい時代に向けてどのような形になっていくのかを少し話し合ってみたいのですが、まず深町院長からお願いします。

**院長** 時代は今、確実に人間教育を志向しており、キリスト教をバッックボーンにしている本学の教育に重要性はますます高まっています。ラテン語にはスキエンチア(知識・科学・技術)とサビエンチア(知恵・叡知・哲学)という言葉がありますが、よく指摘されるようにこれまでのわが国の教育はサビエンチアの面が十分ではありませんでした。この配慮を強化することが、人間教育の大きな目的となります。青山学院大学では從来1年生の「キリスト教概論」などを通して人間教育を行ってきましたが、本来は各学部・学科の専門科目の中で、自然な形で行われるべきものではないでしょうか。その上で、自分を見つめ直す機会としての礼拝の時間があり、人のために何ができるかを試すボランティアやNPOなど、宗教センターが主催するプログラムがある……これらが三位一体となった人間教育を考えていきたいですね。また、人間教育を考える際に、私は人格的な影響力の大ささということに思ひが及びます。内村鑑三や新渡戸稟造が札幌農学校でクラーク博士から教えを受けたのは、わずか8ヶ月に過ぎません。そのことを考えると、単に期間の長さではなく、教育の本質は人格的な影響力の強さにあり、そしてその眼目は「科学する精神」と「神への畏敬」ということにあるのではないかと思います。そうした意味でも青山学院の将来構想においてはスクーンメーカー先生、マクレイ博士、ソーパー博士、本多先生はじめガウチャー博士、間島先生など、学院の歴史を作ってきた偉大な先人の思いをしっかりと受け継いでいくことが大切でしょう。将来構想にあたっては変わることのできるもの、変わっていけないものを識別できる智慧を働かせなければなりません。

**理事長** キリスト教教育、つまり宗教教育というものは、実は私学でなければできないことであり、本学としての独自性を發揮するための核になる大切な部分でもあります。私はキリスト教的な考え方に対する意識によって、国内だけでなく、グローバルに通用する若者が本学から多く生まれることを期待しています。人間教育、ひいては国際教育という観点からも、キリスト教を建学の理念とする本学の教育をもっとアピールしていきたいですね。

**司会** 大学では現在、全学共通科目に関する検討が行われていますが、その中で人間教育はどのように扱われているのですか。

**学長** 学長の諮問機関として「共通教育のあり方検討委員会」を組織していますが、新しい共通教育の中で“青山スタンダード”とい



う考え方を打ち出しているこうとしています。すなわち「およそ本学を卒業した学生であるならば、どの学部学科に関わらず一定の範囲の知識・教養と一定の水準の技術能力を備えているという評価を得られる学生を社会に送り出す」……そうして考えられている全学共通科目的基礎スタンダード科目群の中には、「語学教育・情報教育関連科目と共に、「青山学院史」などのユニバーシティ・アイデンティティ科目というものを設けています。ここでキリスト教精神に基づく本学ならではの人間教育を徹底して行うことを考えています。これは他大学にはないユニークな試みで、現在各学部の先生が集まって、その中身について精力的に論議しています。

**院長** それはいいですね。期待しています。

**学長** また、人間教育というものを考える際、大学が研究の場だけでなく、教育機関であるという教員サイドの明確な認識が重要になります。すなわち学生に対して学費に見合った教育・サービスを徹底してやるという個々の姿勢です。専門家の一人よがりの教育ではなく、常に学生の身になって考え、とことん面倒を見ることに力を尽くすよう、すべての教員の意識変革を促したいと思っています。

**理事長** そうしたサービスに対する意識は、事務組織においても徹底させていきたいですね。あらゆる面で学生が「来て良かった」と思える大学にしていきましょう。最後に言っておきたいことがあります。私たちは青山学院をより良くしようと思って、これまで述べてきたような改革に取り組んでいるわけですが、本当にそれが良いものかどうかは、20~30年後の人々の判断を待つかありません。しかし、きっと良かったと未来の人々に思われるよう、決して今の自分たちのためではなく、将来の人々のためという精神で臨んでいます。

**司会** それはとても重要なことです。本日の会で青学の将来構想の概略がわかったと思います。本日はお忙しい所、ありがとうございました。(2001年11月28日・青山キャンパス)



# 特集 総合研究所の“改革”がスタート



総合研究所所長 佐伯 肇(文学部教育学科教授)

青山キャンパス正門を入って右側に  
そびえ建つ「総合研究所ビル」。  
本学の多彩な研究活動のシンボルともいえる建物です。  
しかし、具体的にどのような研究活動を行っているか  
ご存じでない方も多いかもしれません。  
そこでこの特集では、総合研究所の果たしてきた役割、  
および体制改革が進んでいる現在の姿を  
佐伯所長のお話を中心に紹介します。

## 総合研究所のコンセプトと活動内容

青山学院大学総合研究所は、当時の大木院長の提案に基づき、1988年に創設されました。その目的は、「本大学の教育・研究との有機的な関係のもとに広く学術を総合し、各専門領域および学際領域の研究を行うほか、国内外の大学および研究機関との交流を図り、学術文化の進展に寄与することにより、本大学の教育・研究の基礎を培い、その水準を高めること」にあります。

現在、総合研究所は、7つの研究センター（人文学系研究センター、経済研究センター、法学研究センター、経営研究センター、国際政治経済研究センター、理工学研究センター、キリスト教文化研究センター）から構成されています。このうちキリスト教文化研究センターは、本学の教育方針がキリスト教の精神を基盤としていることから特に設置されているもので、それ以外の6研究センターは、本大学の各学部にそれぞれ対応する形で設置しているものです。

1994年4月には、各研究センターの個別プロジェクトとは別に学際研究プロジェクトが、97年4月には、「福祉」をテーマとした特別プロジェクトがスタート。2001年度には4学部の研究者による「WTO研究プロジェクト」もスタートしています。それ以外にも、産官学協同の大型プロジェクト(AMLプロジェクト)が組まれ、研究の効率と実務への応用にも力を入れています。

総合研究所の研究活動は、本大学の教員がそれぞれの研究プロジェクトに積極的に参加し、所員を兼ねる形で行われています。また、必要により外部研究機関などから客員研究員、あるいは特別研究員を招聘するケースもあります。



## 新たな広報メディア「SOKEN」創刊

新しい運営体制となるのに先駆けて、これまで総合研究所の活動状況等をお知らせしてきた「総合研究所ニュース」を第12号をもって発展的に解消。新たな広報メディアとして「SOKEN」を2001年秋に創刊し

ました。この「SOKEN」は、単にタイトルを変えただけのものではありません。無味乾燥な事務報告や専門家の難解な文章ばかりを掲載するのではなく、「読んでももしろくて、タメになる」という編集方針のもと、門外漢にもわかるやさしい文章でさまざまな学問研究の魅力の一端を知ることができるものにしていきます。



の方々の目に触れるようにしたいとも考えています。タイトルデザインは、文学部教育学科の横山徹助教授（美術教育）にお願いし、読者の理解を助ける図版や写真も積極的に使用。レイアウト面でも読みやすさを考慮しています。創刊号がすでに発行されていますので、ぜひお手に取って読んでみてください。きっと、何らかの「知的発見」をされることと思います。



AMLプロジェクト

e-Learning 技術を利用した新しい授業を創り出す「AMLプロジェクト」

AMLプロジェクト(AOYAMA Media Lab Project)は、本格的なe-Learningための新しい教育方法の提案、e-Learningための電子教材の制作、e-Learningを支える教育ソフトウェアの構築を、各界の専門家集団からなる研究部会を設け推進しております。AML



第4回オープンフォーラム(2001.11.2)

プロジェクトは、何よりもそれらの成果を研究レベルのみに終わらせることなく、実証実験授業を通じた教育方法の有効性検証を経て、着実に正規授業に移行すると

いうかたちで成果をあげております。このような例は、日本の大学の中には他にあまり類を見ません。これまでAMLプロジェクトで構築した正規授業のうち、特に産業界にも通用し、将来国際的に活躍できるビジネスリーダーの養成のための授業として、実業界で利用されているERP(Enterprise Resource Planning)などを活用して「サイバービジネス演習」があります。今後、エンジニアリング系の演習として、3次元シミュレータなどをベースとしてバーチャルファクトリを構築し、仮想疑似体験を通して業務プロセスや技術を実践的に学べる授業スタイルの実現も計画しています。AMLプロジェクトの研究成果は、年2回開催のオープンフォーラムや下記のホームページで公開しています。(AMLホームページ <http://www.agub.aoyama.ac.jp/aml2/>)  
(AMLプロジェクトリーダー 玉木欽也 経営学部教授 記)

WTO学際研究プロジェクト

## WTO問題への多彩なアプローチ

我々のWTO研究プロジェクトは、本学の四学部（経済、法、国際政治経済、経営学部）の研究者メンバーで構成されています。これはWTO（World Trade Organization:世界貿易機関）に係わる問題が多種多様であるためです。例えば、「貿易と環境の問題」、「消費者保護」、「途上国問題」、「国際的な寡占化の弊害」、「知的所有権の独占による弊害」、「輸入急増による弊害」などの諸問題を扱うには、学際的な共同プロジェクト・チームが必要です。本プロジェクトでは、大学の研究機関としての中立的な立場から、これら諸問題に対し自由な議論を交わし、提言を行う体制を整えつつあります。その具体的な枠組みが次の三つです。

第一は、事実を客観的に認識するためのオリジナル情報の収集体制です。スイス(ジュネーブ)のWTO事務局からは、航空便で様々



A horizontal row of approximately ten green, ribbed, cylindrical objects, possibly ceramic vessels or containers, arranged side-by-side. The objects have a textured surface with vertical ridges and appear to be made of a clay-like material.

(WTO学際研究プロジェクト代表 岩田伸人 経営学部教授 記)



特集

青山学院全体で  
「喜び」を分かち合う  
大切な礼拝です



宗教部長 鈴木有郷(文学部教授)

——青山学院のクリスマス・ツリー一点火祭(以下、点火祭)とは、どのような意味合いを持つ礼拝なのですか?

鈴木 イエス・キリストの降誕を祝うクリスマスまでの4週間を、アドヴェント(待降節)といいます。このアドヴェントという言葉には、わくわくしながら待つという意味合いがあり、点火祭のモチーフも「喜び」にあります。点火祭は、その喜びの季節に入ることをしっかりと心に刻むため、各キャンパスのクリスマス・ツリーに灯りをともすというもので、今年で25回目を迎えました。もうひとつ重要なのは、点火祭が青山学院全体が一つになる行事だということです。実は幼稚園児から大学・大学院生までが一同に会する機会というのは他にありません。その意味でも建学の精神に則って学

院全体で「喜び」を分かち合う点火祭は、かけがえのない礼拝と言えるでしょう。

——点火祭の特徴とは何でしょう?

鈴木 まず、「喜び」を盛り上げてくれる主役である聖歌隊やハンドベル・クワイア、プラスバンドなどによる音楽です。また、出席者全員が頭上高く掲げる多くのロウソクの灯に浮かび上がった美しい光景も、大きな特徴でしょう。学生も普段見慣れているはずのキャンバスの、また違った雰囲気を味わうことができるはずです。

——青山キャンパスの点火祭には、毎年多くの人が訪れますね。

鈴木 にぎやかな渋谷の街にある青山キャンパスでは、やはり一般の方々も足を運びやすいようで、例年合計5,6千人もの出席者が集まります。「ぴあ」などの情報誌にも、日程が掲載されているようです。かつては東京の街の季節を伝える風物詩として、毎年テレビのニュース番組にも登場していました。

——テレビと言えば、同時多発テロがあったニューヨークの街での点火祭の映像が伝えられ、とても印象的でした。

鈴木 そうでしたね。ニューヨーク市民に新たな「喜び」が訪れるることを願っています。そう言えば、本学の点火祭は、そもそもアメリカのホワイトハウスで行われていた点火祭をヒントにして始められたという話を聞いています。

——2003年度に開学する相模原キャン

パスでも点火祭を行うのでしょうか。

鈴木 もちろんです。礼拝堂の敷地内に大きな樹木が植えられる予定ですので、きっと立派なツリーになることでしょう。相模原キャンパスの場合、敷地が広いですし、地元の方々も多数出席できるような試みを行って、地域との共生を図っていきたいと思っています。

**私たちにとっても  
大きな節目となる  
礼拝です**



大学聖歌隊  
隊長  
上利 一美さん  
文学部フランス文学科3年

今年も無事に各キャンパスでの点火祭を終えることができました。点火祭は、私たち聖歌隊にとっても大きな意味を持つ礼拝です。というのも厚木キャンパスで行われる点火祭において初めて、1・2年生だけで歌うことになるからです。いわば、下級生が自立するための節目。私が1年生だった時も、不安を覚えながらも、とても気合いを入れて臨んだことを覚えています。

聖歌隊の歌声は、点火祭のほか定期演奏会、クリスマスコンサート(4年生主体)などにて始められたという話を聞いています。また、夏休みには「演



2001年11月30日(金)に各キャンパスで開催した毎年恒例の「クリスマス・ツリー点火祭」。幼稚園児から大学・大学院生までが一体となるこの礼拝について鈴木有郷宗教部長のお話を伺い、当日素晴らしい演奏を聴かせてくれた大学聖歌隊とハンドベル・クワイアの学生からのメッセージをお届けします。



**ハンドベルの魅力を  
知ってもらうための  
絶好のチャンス**



ハンドベル・クワイア  
クリスマス・コンサート委員長  
勢一 元康さん  
経営学部経営学科3年

青山学院大学ハンドベル・クワイアは、1979年創設。各種学内行事への参加のほか、教会での演奏、夏の演奏旅行、関東大会、隔年で開かれるハンドベル世界大会への参加、クリスマスチャペルコンサートなどの活動を行っています。16世紀にイギリスの教会でタワーベルの練習用の楽器として開発されたハンドベルという楽器についてあまり知らない人も多いのでは。

ハンドベルの最大の魅力は何と言っても「響き」の美しさ。大小さまざまなハンドベルが奏法テクニックによって、実に多彩な音色を奏することができます。また、一人では演奏ができない楽器であり、全員の心が一つになった時、初めて良い演奏ができるということも大きな特色です。大勢の人々が出席する点火祭は、私たちにとって、ハンドベルの魅力や奥深さを広く知っていただくための絶好の機会。だから、事前の練習にも熱が入ります。

一緒に奉仕する大学聖歌隊とは、同じく青山学院宗教センターに所属し、学内行事で共演することが多いので、部員同士とも仲良し。今年の点火祭でも、共に素晴らしい演奏ができたと思うのですが、いかがでしたでしょうか?



●青山キャンパスと同じ11月30日(金)世田谷および厚木キャンパスでもクリスマス・ツリー点火祭が行われました。



クリスマス・ツリー(厚木キャンパス)

# 硬式野球部

## 志田・石川両選手が ヤクルトから同時指名

2001年11月19日(月)、プロ野球のドラフト会議において、硬式野球部の志田宗大君がヤクルトスワローズに8位指名。これに先立つ11月2日(金)には新制度の自由獲得枠で、石川雅規君が同球団に入団することが決定しました。この特集ではそんな両選手に直撃インタビュー。あわせて部長、監督、コーチから二人へのエールを掲載します。

### 日本一のチームで、 自分の力を試したい。

志田君は、仙台育英高校出身。打撃力に加えて俊足と守備力も光るバランスのとれた外野手です。キャプテンとしてチームをまとめて、リーダーとしての高い信望を受けていました。2001年秋季リーグ戦、対亜細亜大学3回戦では、2打席連続ホームランを放ち、大学野球での有終を飾ると共に、勝負強さの本領を発揮しました。

まず、プロとしてこれからも野球を続けられることが何よりも嬉しいです。やはり、ずっとプロへの憧れはありましたし、人気球団のヤ

クルトスワローズからの指名ですから……ただ、プロに入ることは、僕の野球人生にとってゴールではありません。むしろこれからが勝負なのです。まず、コンスタントに一軍の試合に出場できるよう実力をつけることを目指します。日本一になる実力があるチームなので、その中で自分を試したい。特に外野手は、外国人選手も含めて競争が激しいポジションですから、容易なことではありませんが、野球部の大先輩であるダイエーホークスの小久保裕紀さんを目標に頑張りたいと思います。

大学時代の思い出は、2年生の時に東都大学リーグで優勝できたことです。この時は、ほんとうに素晴らしい先輩に恵まれたと思います。だから、自分自身がキャプテンとして、後輩たちに優勝の喜びを与えてあげられなかったことが、少々心残りなのですが……。それから、海外遠征でアメリカ、オランダ、中南米を訪れたことはかけがえのない経験です。これらの国々の野球を目の当たりにして、そのスケールの大きさを実感。自分の野球観が変わるほどの衝撃を受けました。

勝負の世界には厳しさ、つらさがつきものですが、来年度、後輩たちにはそうしたものから逃げずに思い切ったプレーをしてほしい。僕もプロの世界から応援しています。



▲相模原新キャンパス野球場にて(左から河原井監督、志田君、石川君、本郷野球部長、善波コーチ)2001.11.29



志田宗大君  
経営学部第二部経営学科



石川雅規君  
文学部史学科

### まず、チームから 信頼される選手になりたい。

大学通算23勝の石川君は、秋田商業高校出身。シドニー五輪日本代表としても活躍し、五輪アジア予選ではヤクルトスワローズの古田捕手ともバッテリーを組んでいます。小柄な身体から繰り出されるスクリューボールヒスライダーの切れ味が抜群で、制球も良い技巧派左腕。その技術とマウンド度胸がプロの世界でどのように発揮されるか楽しみです。

子供の頃から憧れていたプロ野球選手になることができ夢のようです。そして今の自分がるのは、青山学院大学で野球ができたからだと思っています。強豪大学の中では部員数が少ないのですが、それはハンディで

「文武両道」で、大学4年間を過ごした一人に拍手。  
東都大学リーグ戦での活躍により、私たちに数々の思い出を残してくれた志田・石川君。二人ともとてもまじめな人間で、野球にも学業にも全力で取り組んでいた姿が印象的でした。特に石川君の場合、日米野球やオリンピックでの遠征などもあり、学業との両立にかなり苦労したと思いますが、弱音を吐かず立派でした。大学野球では輝かしい実績を残した二人ですが、プロの世界ではゼロからのスタート。新しいチャレンジが始まります。しかし、この二人なら、必ず表舞台で活躍してくれるものと私は信じています。今は両選手の活躍をぜひテレビで見たい気持ちでいっぱいです。そして、私だけでなく母校で頑張る後輩たちに大きな勇気を与えてあげてください。



本郷 茂  
硬式野球部  
部長  
(経済学部教授)

ではなく選手一人ひとりの実力、個性を伸ばすためには絶好の環境であったと思います。他大学で野球をしていたら、自分がここまで活躍できたかどうか……。プロや社会人野球で活躍しているOBもたくさんいますから、そうした方々の存在も自分の励みになりました。

プロに入っての目標は、とにかく「チームから信頼される選手になること」に尽きます。安心して使ってもらえる投手になることができれば、成績はその後からついてくるものだと思いますから。そして、決してパワーだけではないピッチングの面白さをファンの人たちにも伝えることができる投手になりたいですね。目標とする投手は、読売ジャイアンツの工藤公康さん、そしてもちろん野球部の先輩であるジャイアンツの木村龍治さんです。

志田君は最高のキャプテンでした。チーム



石川雅規君  
文学部史学科

の中でも彼が一番努力していたから、自然に僕たちも彼についていこうという気持ちになりました。これからも同僚として野球ができるることはとても幸せです。一軍の試合で、彼と一緒に戦える日を楽しみにしています。

石川君。君のマウンド度胸の良さにはいつも感心させられました。闘志を剥き出しに相手バッターに向かっていくその姿勢があればこそ、身長が低いというハンディをはねのけて、しっかり結果を残せたのだと思います。その闘志をプロの世界でも持ち続けて、ぜひ先発ローテーション入りを目指してください。

志田君。キャプテンとして、個性の強い選手たちをまとめるのに苦労したことでしょう。君の責任感の強さには敬服します。私は、キャプテンの重責がなかったら、君がもっと活躍できたかも……と思うことがあります。しかし、そんな君だからこそ、プロの世界でも自分の役割をしっかりと見極めてから、必ず一軍入りを果たしてくれるものと信じています。



河原井正雄  
硬式野球部  
監督

志田外野手は、1年生の秋から試合で活躍していました。とにかく勝負強いバッティングで、頼りになる選手でした。しかも走っても、守っても素晴らしい。監督として、いちばん「使ってみたい」選手だったことに間違いありません。

一方、石川投手の場合、1年生の時にはその才能をまだ発揮できませんでした。技巧派左腕としての彼の活躍が始まったのは2年生のオープン戦から。コーチよりスクリューボールを教えられると、すぐに修得して見事なピッチングをやってのけました。その後、日米野球やオリンピックで世界の野球を経験したことにより、一層才能が花開いたのです。

競争の激しいプロの世界での二人の活躍を願ってやみません。



善波厚司  
硬式野球部  
コーチ

### 共同記者会見

▼ドラフト会議当日に行われた共同記者会見。



▲共同記者会見にはスポーツライターの乙武洋匡氏も駆けつけました。

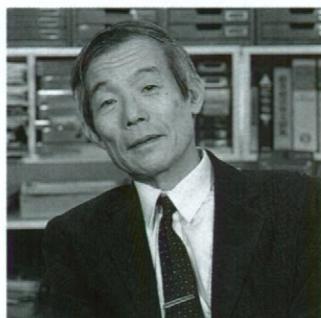
### 新キャンパス野球場が竣工

▼2001年11月29日(木)、新キャンパス開学に先駆け、硬式野球場が竣工。両翼95m、中堅120mの広さを誇り、観覧席も設けられています。



▲バックネット裏観客席より。

# 新しい高温超伝導体発見の秋光純教授が「紫綬褒章」受賞! 実験にあたった永松純君も数々の栄誉に輝く



理工学部物理学科  
秋光 純 教授

これらの研究は、いずれも学部生や大学院生と共に取り組んでいた研究で、決して私一人では成し遂げられたものではありません。その意味で、今回の紫綬褒章は、私が研究チームの代表者として戴いたものと受け止めています。

そもそも固体物理学の研究は、実績や経験だけではなく、地道な努力と運が結果を左右することが多いものです。学部生や大学院生にも世界的大発見の大きなチャンスがあります。実際、新聞などで報道された通り、「ニホウ化マグネシウム ( $MgB_2$ )」も当時学部生だった永松純君と共同実験者の地道な実験作業の末に見つけることができたのです。まさに学生と私のコンビネーションの勝利といえるでしょう。



理工学研究科物理学専攻 博士前期課程1年  
永松 純 君

いう固体物理学の研究が持つ魅力は、私にとって何物にも代え難いもの。「今は自分ができること、やるべきことにしっかりと取り組もう」と心新たに研究に取り組んでいました。

そんな矢先の去る11月、「ミレニアム・サイエンス・フォーラム」特別賞受賞、続いて関科学技術振興記念財団より80万円の研究助成金を支給していただけました。若手の研究者を対象にしたこれらの賞や助成金は、今後の私の研究活動にとって大いに励みになりますし、なにより秋光先生の紫綬褒章受賞ともども私たちの研究室の存在と活動が、再び社会にクローズアップされたことが嬉しいです。「ミレニアム・サイエンス・フォーラム」では、まだ院生である私のために今回初めて「特

2001年は、私たちの研究室にとって喜びにあふれた1年になりました。2月には高温超伝導体「 $MgB_2$ 」の発見、続いて夏には新しい強磁性体「 $CaB_2C_2$ 」を発見し、社会的に大きな注目を浴びたからです。今回、紫綬褒章をいただいたのも、こうした私たちの研究室の成果を、社会が評価してくれたからだと思います。

しかし、固体物理学の世界では「ここまで研究したから、成果を出したからそれでお終い」というものではありません。紫綬褒章はいただきましたが、私もまだまだ若い気でいますので(笑)、今回の成果に満足することなく、今後の物理学の発展の方向を見据ながら研究を続けます。「人のやっていないことをやろう」「物理学の新しい潮流を創ろう」というのが私たちの研究室のテーマですが、学生たちの柔らかい頭の助けを借りて、また、大きな発見ができると思っています。

今回の受賞で私が嬉しく思うことが、もう一つあります。それは官界の褒賞受賞者が多い中、数少ない私学の受賞者になれたこと。マスメディア等を通して青山学院大学の名前を世界に響かせることができたわけで、この事実は理工学部を始め本学の学生に、幾ばくかの勇気を与えることができたのではないかでしょうか。そして、その結果として多くの高校生が大きな夢を抱いて本学を志望してくれれば、こんなに嬉しいことはありません。



別賞」を設けたとい  
うこと、そのことも  
大変光栄に思います。  
研究助成金は、  
新物質探索で必要  
になる高価な実験  
材料の購入費用に  
充てたいですね。

秋光先生は優れた研究者であることはもちろん、教育者としても素晴らしい方です。私もまだそんな秋光先生のアドバイスを頼りとすることが多いのですが、ゆくゆくは自らのアイデアで新しい発見ができるようになりたいです。そのためにも、自分の研究分野以外にも目を向けて、視野を広げていくことが大切だと思っています。

# 理工学部機械創造工学科から生まれた新しいタイプのエコ・カー、その名も「液体窒素自動車」

日本経済新聞、日刊工業新聞2001年8月16日付にて掲載



理工学部機械創造工学科  
林 光一 教授

カ。2001年8月に試作機による時速40kmでの走行実験に成功し、新聞報道されるなど注目を集めました。

そもそも林教授の専門分野は、航空宇宙工学や数値流体力学です。研究室では「新世界へのExploration(探検)」をテーマに、極超音速機など先端の航空宇宙技術の研究をメインにしていました。しかし、やがて乗り物とそれを取り巻く文明社会のあり方への関心から、「環境・安全問題」へと研究領域が広がってきたといいます。「実は液体窒素自動車のもともとの発想は、同じ分野の研究者として交流があったアメリカ・ワシントン大学のヘルツベルグ博士のものでした。このアイデアを博士から聞いて、日本ではまだ誰も手がけていない技術でしたから、私は大いに関心を持ちました。するとぜひ日本で広めてほしいと博士自ら要請され、本格的に研究をスタートさせることにしたのです」

零下196℃以下で液体となった窒素が、室温で気体に戻る(気化する)際に体積が1000倍以上に膨らみます。その膨張エネルギーを利用してタービンを回すのが液体窒素自動車のメカニズム。燃料電池車の複雑なシステムと較べると驚くほどシンプルです。また、燃料となる液体窒素は、空気の約3/4を占める窒素が原料。液体窒素自動車は気化した窒素を再び空気中に排気するので、排ガスによる環境への影響もほとんどありません。さらにガソリン以外を燃料とするエコ・カーは、水素、天然ガス、メタノールなどで研究開発が進んでいますが、液体窒素は空気中での発火の危険性がなく、その安全性や無害性の面でもっとも優れています。また、液体窒素の供給には、従来のガソリンスタンドのインフラを流用することも可能で、次世代自動車としての実用化への期待も膨らみます。

地球環境問題への意識が高まっている現在、電気自動車、ハイブリッドカー、そして近々市販車が登場する予定の燃料電池車など、さまざまなタイプの環境対策車(エコ・カー)の研究開発が本格化しています。そんな中、機械創造工学科の林光一研究室が開発した「液体窒素自動車」は、これまでの発想とまったく異なる動力源を持ったエコ・

ワンボックスの軽自動車の荷室にポンベと熱交換機を搭載した第一号試作車では、液体窒素をポンベにつながったバルブの開閉によって燃料供給を行っています。そのため、試運転時には、ハンドル操作をするドライバーのほかにバルブを操作する学生が乗り組んでいました。アクセル操作とハンドル操作をそれぞれ別の人間が受け持つのです。

「最初の試作車はあくまでも第一段階。市販の汎用タービンや熱交換機を流用して、ロードコストで作りましたので、性能的にはいわば自動車の始祖であるT型フォードのレベルといえます。これから各部品を最適化し、改良を加え、走行距離やパワーアップを図っていきます。理論上のエネルギー効率は電気自動車と同等以上ですし、走行コストもリッター15km走るガソリン車に十分対抗できるレベルまでいくはずです」

現在、アクセルペダルによる燃料の供給や変速ギアなどを組み込んだ次の段階の試作車を学生とともに製作中です。

「今後も研究のスピードをゆるめず、しかし焦らず、着実に研究を続けていきたい。新聞で発表されて以来、さまざまな企業から問い合わせや協力要請がありました。今後はこうした企業とも協調しながら、液体窒素自動車を環境志向の世の中を動かしていくムーブメントに広げていきたいですね」

液体窒素自動車は、エコ・カーの本命とされている燃料電池車との競合が予想されますので、林先生は社会へのプレゼンスを高めるために次のステップとして液体空気によるエコ・カーも考えているそうです。

「原理が単純な液体窒素自動車の研究は、研究者として評価される研究ではありません。しかし世の中に貢献し、しかも学生が関心を持って取り組める研究テーマなので、地球市民として、教育者として、私自身やりがいを感じて取り組んでいます。本来の研究もありますので、私の仕事は忙しくなりますが、それは仕方ありません。学生のため、大学のためにがんばりたい」

なお、林先生は液体窒素自動車の他にも「社会にインパクトを与える研究」を進めているうなので、近々、このAGUニュースに再登場いただくなもしれません。ご期待を!



液体窒素自動車前で

## 「りこうがくぶ公開」報告

2001年10月13日(土)、「りこうがくぶ公開」が「父母懇談会」と合わせて、世田谷キャンパスで開かれました。当日は良く晴れて絶好の公開日和でした。今回は、近隣小学校と青山学院初等部から合わせて268名もの多くの児童が参加しました。ロボットと遊んだり、スライムを作ったり、自分の体を調べたりとキャンバス内は子供達の歓声が絶えませんでした。一般向けには、多くの研究室と先端技術研究開発センターが日頃の研究を公開しました。学生も参加し、熱心な討論を行っていました。(理工学部化学科教授 小野 勲記)





国際マネジメント研究科長  
伊藤 文雄 教授

10月5日、思いかけず、文部科学省より宮内庁長官からの園遊会招待の案内状が届けられました。多分、私の招待は文部科学省の中央教育審議会委員活動の関係で文部科学省が宮内庁に推薦されたものと思われます。爽やかな秋晴れの中で開催された赤坂御苑での園遊会。天皇皇后両陛下をはじめ皇族方は、池の周りの道筋に並ぶ人々の胸の肩書きを

ご覧になりながらお回りになられました。人ごみの少ないところにいた我々は直に接する光栄に恵まれ、とりわけ、皇后陛下の「まあー、青山学院、ようこそおいで下さいました。どうぞ、ごゆっくりとおくつろぎ下さい。」とのあの優しいお声がいまでも印象に残っています。そのお言葉に甘えて、私たち夫婦は数ヶ所に設けられたテントで茶菓の接待をうけ、広大な御苑を散策し、想い出深い半日を過ごしました。

## 本学の2教授 秋の園遊会に招待される

2001年11月1日(木)、天皇、皇后両陛下主催による秋の園遊会が赤坂御苑で開かれ、各界の功労者約1800人が招待者として出席。本学から招待者として選ばれた国際マネジメント研究科長 伊藤文雄教授および経営学部 東海幹夫教授に、当日のお話を伺いました。



経営学部  
東海 幹夫 教授

長年、旧郵政省の各種委員などを務め、最近では、コスト論の研究を土台にして、NTTの接続料金や郵政事業の公社化をめぐる問題などで政策提言を行ってきました。おそらくそのような関係から、この度、秋の園遊会の招待者に選ばれたものと思います。

当初は、堅苦しい行事ではないかと思っていたのですが、実際に出席してみると、とても

フランクで、リラックスできるイベントでした。庭園にて、同じく招待されていた旧知の方々と食事しながら歓談。広大な赤坂御苑内は自由に歩き回ることができ、実に何十年ぶりに(笑)、妻と二人でのんびり散策を楽しみました。会場では、招待者がお互いに写真を撮り合ったり、宮内庁の職員の方々も私たちが楽しい時間を過ごせるよう、精一杯の心づくしを行ってくれました。

1937年生(1967.4.1就任)

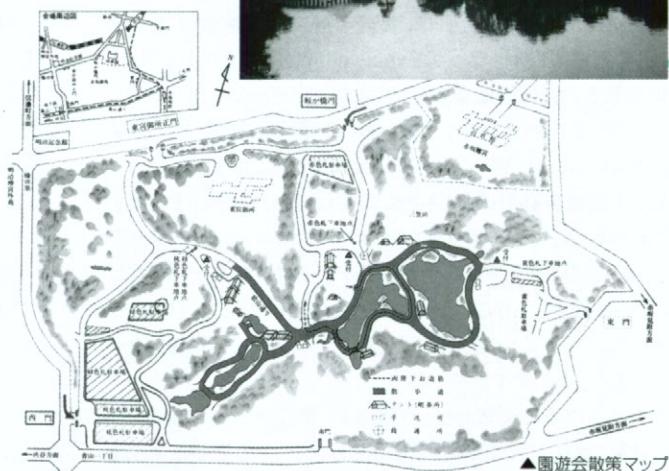
【略歴】青山学院大学経済学部商学科卒業、同大学大学院経済学研究科商学専攻修士課程修了、中央大学大学院商学研究科博士課程退学、ウィスコンシン大学Honorary Fellow、テキサス大学Senior Research Fellow、中華人民共和国・東北大学兼職教授、国際政治経済学部長を経て専門大学院国際マネジメント研究科長

【最終学位】商学博士

【賞】1976年度青山学院学術褒賞

【公的活動】文部省大学審議会特別委員(1993~99年度)、文部科学省中央教育審議会専門委員(現在)、同省大学設置・学校法人審議会特別委員(現在)、同省経済学・商学視学委員(現在)など

【担当科目】マーケティング(専門大学院)



▲園遊会散策マップ



1944年生(1972.4.1就任)

【略歴】青山学院大学経済学部卒業、青山学院大学大学院経済学研究科修士課程修了、同経営学研究科博士課程単位取得済退学

【最終学位】商学修士

【公的活動】大蔵省公認会計士第二次試験委員(1995~97年度)、郵便事業外部評価検討会議座長(1999, 2000年度)、内閣府独立行政法人評価委員会委員(現在)、電気通信事業紛争処理委員会特別委員(現在)、日本原価計算研究学会理事(現在)など

【担当科目】原価管理研究(大学院)、管理会計(大学院)、原価計算論・原価管理論(学部)

## 2001年度父母懇談会 開催報告

本学では、大学後援会事業の一環として、父母懇談会を実施しています。父母懇談会の目的は、大学の近況、学業および就職活動などについての全体説明や個人面談を通じて、ご父母との緊密なコミュニケーションをはかり、本学のより良い教育を実現することにあります。

2001年度父母懇談会は、5月の文学部首都圏父母懇談会に始まり、西日本（22地区）・東日本（3地区）において地区父母懇談会を順次実施し、10月の理工学部首都圏父母懇談会まで、全日程を無事終了することができました。多くのご父母にご参加いただき、ご協力いただいたアンケートからは、「大学を身近に感じられる良い機会だった」「就職状況がよくわかった」といったご評価をいただきました。

### 福岡・山口地区父母懇談会（8/25・26）

本学の地区父母懇談会は、ビデオによる大学紹介からスタートし、午前中の全体説明会、昼食会、午後の個別面談というスケジュールで進行します。今回の福岡・山口地区父母懇談会では、大学代表者として半田学長が出席。全体説明会の挨拶に立った学長は、大学院を含む学部学科の改組、相模原新キャンパス、青山キャンパスの新しい大学礼拝堂などの近況報告のほか、理工学部秋光教授の研究室による超伝導と磁性に関する2つの世界的発見を報告。また、これから本学のあり方として学長自身が掲げている3つのモットー（①明るい大学②社会に開かれた大学③学生を大切にする大学創り）のもと、発展的に改革を進めていきたいと表現し、そのためには校友、ご父母同士のご協力も欠かせないと要望も出されました。なお、過去の父母懇談会で実施したアンケートでの「開催地区、回数を増やしてほしい」との要望に対して、今回半田学長は「父母懇談会の重要性を改めて認識し、可能な限り増やす方向で改善する予定」との回答を示しています。

学長の挨拶に続いて行われたのは、学業成績についての説明です。教務課職員が、配付資料に沿った形で各年次毎の単位取得状況および現在の成績順位、進級・卒業について、具体的な解説を行いました。そして全体説明会の締めくくりは、今年度の就職状況全般についての報告。就職部事務部長が①長期化②エントリーシートの重要性③インターネットの活用など近年の就職活動の特徴や、就職部の就職指導体制などを報告し、最終的には学生本人の自覚により結果が左右されると強調しました。この全体説明会に対する父母の方々の関心は極めて高く、当日も真剣なまなざしで聞き入る参加者の姿がとても印象的でした。

昼食会は、各校友会支部の代表による乾杯のご発声でスタート。ご父母同士は初対面の方々がほとんどでしたが、終始和やかな雰囲気で情報交換をされていました。そして午後の個別面談では、大学全般、学業成績、学生生活、就職の各ブースを設置。参加者に自由に面談していただきました。

今回ご都合がつかず、出席できなかったご父母の方々も多数いらっしゃったと思います。学長の説明にもあった通り、今後地区、回数共に増やす方向で検討しております。ぜひ、多くの父母の方々にご出席いただき、貴重なご意見・ご要望をお聞かせください。

（学務部教務課係長 原 啓 記）



半田学長との個別面談（於福岡会場）



学業成績についての全体説明（於福岡会場）

### 父母懇談会（地区）※全学部・全学科のご父母対象

対象道府県	開催地	開催日
滋賀県	京都市	8月25日(土)
京都府	京都市	8月4日(土)
大阪府	神戸市	8月5日(日)
兵庫県	奈良市	8月26日(日)
奈良県	和歌山市	8月5日(日)
和歌山县	和歌山市	8月4日(土)
鳥取県	鳥取市	8月5日(日)
島根県	松江市	8月19日(日)
岡山県	岡山市	8月18日(土)
広島県	広島市	8月26日(日)
山口県	徳島市	8月18日(土)
徳島県	高松市	9月2日(日)
香川県	松本市	9月1日(土)
愛媛県	高知市	8月19日(日)
高知県	福岡市	8月25日(土)
福岡県	佐賀市	8月18日(土)
佐賀県	長崎市	8月19日(日)
長崎県	熊本市	8月4日(土)
熊本県	大分市	8月5日(日)
大分県	宮崎市	7月29日(日)
宮崎県	鹿児島市	7月28日(土)
鹿児島県	那覇市	9月1日(土)
沖縄県	札幌市	9月15日(土)
北海道		
青森県		
岩手県		
秋田県		
山形県		
宮城県		
福島県		
愛知県	仙台市	10月7日(日)
三重県		
岐阜県		
	名古屋市	9月24日(月・祝)

### 父母懇談会（首都圏）※東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県にお住まいの3年次生のご父母を対象

対象学部	開催日
文学部・文学部第二部	5月26日(土)
経済学部・経済学部第二部	6月30日(土)
法学部	6月9日(土)
経営学部・経営学部第二部	6月16日(土)
国際政治経済学部	6月2日(土)
理工学部	10月13日(土)

# 春期休業中の窓口案内

対象期間 2/6~4/3  
窓口停止時間 11:30~12:30(厚木キャンパスのみ、水・土は11:40~12:40)

部署	窓口事務取扱期間	曜日	取扱時間	備考
青山キャンパス	教務課 2/20より平常通り	月~土	9:00~16:00(土曜日は11:30まで) 9:00~17:00(火・金は19:00まで、土は13:00まで) 9:00~19:00(土は13:00まで)	2/6~2/26、3/25は窓口停止 4/4より平常通り 4/6は窓口停止 窓口停止時間 16:00~17:00 (土は12:00で窓口終了) 貸出期限を厳守してください。休館中の本の返却は正面入口脇のブック・ポストに入れてください。卒業年次生は2/28までに必ず図書を返却してください
	教職課程課 3/8~4/3			
	学生部 2/27~3/23 3/26~4/3			
	就職部 ~2/9 2/20~			
	図書館 2/25~4/3			
	第二部事務部 2/28より平常通り			
	大学院事務室 3/8~			
	広報入試センター 2/6~4/3			
	情報科学研究センター 2/6~4/3			
	国際交流センター 3/1より平常通り			
世田谷キャンパス	外国语ラボラトリー 2/6~4/11	月~土	9:00~16:00(土のみ11:30まで) 9:00~17:00(土のみ11:30まで) 9:00~16:00(土のみ11:30まで) 9:00~19:00	事務室および教室移転の為、春期休業期間窓口停止。4/12より平常通り 月・火・金の夜間開室は4/12からです 4/12より平常通り
	学生相談センター 3/1より平常通り			
	保健管理センター 2/6~4/11 2/6~2/8			
	宗教センター 2/9~3/31 4/1~4/3			
	庶務課 2/28より平常通り			
	教務課			
	学生課			
	就職課			
	図書課 2/6~4/3			
	情報科学研究センター 平常通り			
厚木キャンパス	外国语ラボラトリー 2/28~4/3	月~土	9:00~16:00(土のみ11:30まで) 9:00~21:00(土のみ16:00まで) 9:00~17:00(土のみ13:00まで) 9:00~16:00(土のみ11:30まで) 9:00~17:00(土のみ13:00まで)	2/6(水)~19(火)、3/4(月)~9(土)の期間は入試業務及び図書点検のため1F閲覧室は閉室となります コンピュータ利用日程は掲示板参照※ 4/3~9は学生健康診断につき停止
	学生相談センター 3/1より平常通り			
	保健管理センター 2/6~4/2			
	機械工工作室			
	先端技術研究開発センター			
	理工学会			
	宗教センター 平常通り			
	庶務課 平常通り			
	教務課			
	学生課 3/1より平常通り			
万代記念図書館	万代記念図書館 3/18~4/3	月~土	9:00~16:30(土のみ11:30まで) 9:00~17:00(土のみ13:00まで) 9:00~16:00(土のみ11:30まで) 9:00~16:00(土のみ13:00まで)	月~金:経理業務は16:00まで、土:経理業務は11:00まで 2/6~2/28は窓口停止 2/6~3/17は図書館裏通用口から入館できます。館外貸出・返却・及び紹介状発行業務のみ。閲覧不可 コンピュータ利用日程は掲示板参照※ 2/6~2/28は窓口停止
	情報科学研究センター 2/6~4/3			
	国際交流センター 3/1より平常通り			
	外国语ラボラトリー 9:00~16:00(土のみ11:40まで)			
	学生相談センター 9:00~16:50(土のみ11:40まで)			
	保健管理センター 9:00~16:00(土のみ11:40まで)			
	宗教センター 9:00~17:00(土のみ13:00まで)			
	庶務課			
	教務課			
	学生課			

詳細は各キャンパスの掲示板をご覧ください。 ※印につきましては窓口停止時間はありません。

## 大学学費納付について (大学院の学費納付については、大学院要覧を参照してください)

### 1. 学費振込依頼書発送・納付期限等について

- (1) 前期振込依頼書発送4月9日(火)【納付期限4月26日(金)】  
後期振込依頼書発送9月10日(火)【納付期限10月4日(金)】
- (2) 学費振込依頼書の送付先は保証人宛(第二部のみ申し出があれば学生宛)です。
- (3) 学費振込依頼書に記載の銀行での振込みは、振込手数料は無料です。その他の都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、農業組合等での振込みは、振込手数料が必要になります。

※ご注意 自動振込機による振込は絶対にしないでください。  
(学費納入の確認ができません。)

### 2. 各種事項問い合わせ先

- (1) 住所変更(保証人・本人)→各キャンパスの学生部(学生課)
- (2) 学費の延納・分納を希望する場合→各キャンパスの学生部(学生課)
- (3) 休学・退学を希望する場合→第一部は教務課(各キャンパス)  
理工学部・第二部は学生課

- (4) 学費振込依頼書紛失 →本部経理部出納課

青山キャンパス 03-3409-8111(代表)

厚木キャンパス 046-248-1221(代表)

世田谷キャンパス 03-5384-1111(代表)

3. 転部・編入学・再入学学生の学費は、本部経理部出納課にお問い合わせください。

4. 4年次で留年した学生の学費振込依頼書発送は5月下旬になります。  
【納付期限6月17日(月)】

5. 年間学費を一括して納付することもできます。

希望される場合は各キャンパスの学生部(学生課)に申し出てください。

### 6. 教育ローンについて

本学では銀行と特別に提携した、有利な条件の「教育ローン」があります。詳細については、AGUニュース第11号(3~4月号)に掲載いたします。

### 2002年度学費一覧表(入学年度別)

単位:円

年度 学科	2001年度入学生		2000年度入学生		1999年度入学生	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
第一部 教育学科	548,400		468,400		445,900	
英米文学科	548,100		468,100		445,600	
フランス文学科	548,900		468,900		446,400	
日本文学科	548,900		468,900		446,400	
史学科	549,900	352,500	469,900	352,500	447,400	330,000
心理学科	580,900		469,900		447,400	
経済学部	549,900		469,900		447,400	
法学部	550,900		470,900		448,400	
経営学部	549,900		469,900		447,400	
国際政治経済学部	560,900		480,900		458,400	
理工学部	834,900	512,500	734,900	512,500	702,400	480,000
第二部 教育学科	280,300		280,300		265,800	
英米文学科	280,000		280,000		265,500	
経済学部	281,800		281,800		267,300	205,000
経営学部	281,800		281,800		267,300	

1.上記以外に、文学部心理学科夜間主コース・法学部・国際政治経済学部・理工学部の学生で体育実習を履修する者は、体育実習料として3,000円が後期授業料に加算されます。第二部の学生で体育実習を履修する者は、体育実習料として2,500円が後期授業料に加算されます。

2.上記学費一覧表は、転部・編入学・再入学等は除きます。

問い合わせ先:本部経理部出納課 03-3409-6479(直通)

# 2002年度学事暦

## 前期

4月 4日(木)	オリエンテーション、履修ガイダンス 健康診断(11日(木)まで)
4月 6日(土)	入学式
4月 8日(月)	大学院入学式
4月12日(金)	前期授業開始
4月16日(火)	新入生歓迎礼拝(第二部)
4月17日(水)	新入生歓迎礼拝(厚木)
4月19日(金)	履修登録最終日
5月20日(月)	前期チャペル・ウィーク(25日(土)まで)
6月 8日(土)	アドバイザー・グループ・デー (全キャンパス休講)
7月16日(火)	補講日(17日(水)まで)
7月18日(木)	前期定期試験期間(学部)(31日(水)まで)
8月 1日(木)	夏期休業(9月28日(土)まで) 清里サマー・カレッジ(3日(土)まで)



## 後期

9月21日(土)	大学院学位授与式
9月30日(月)	後期授業開始
10月12日(土)	理工学部公開(世田谷キャンパス休講) 厚木祭(13日(日)まで)(厚木キャンパス休講)
10月21日(月)	後期チャペル・ウィーク(26日(土)まで)
11月 1日(金)	青山祭期間(5日(火)まで) (全キャンパス休講)
11月12日(火)	創立記念礼拝(青山、世田谷、第二部)
11月13日(水)	創立記念礼拝(厚木)
11月16日(土)	創立記念日(全キャンパス休講)
11月29日(金)	クリスマス・ツリー点火祭
12月17日(火)	クリスマス礼拝(青山)
12月19日(木)	クリスマス礼拝(厚木)
12月20日(金)	クリスマス礼拝(世田谷)
12月24日(火)	冬期休業(1月8日(水)まで)
1月 9日(木)	後期授業再開(1月9日(木)は月曜日の振替授業)
1月21日(火)	補講日(22日(水)まで)
1月23日(木)	後期定期試験(学部)(2月6日(木)まで)
2月 8日(土)	第二部スプリング・カレッジ(9日(日)まで)
3月25日(火)	卒業礼拝、学位授与式
3月27日(木)	大学院学位授与式

## 新年度書類配付について

### 青山キャンパス

学 部	登校日	時 間	書類配布場所
文 学 部	3年 4月5日(金)	9:30	7号館1階ロビー
		10:00	9号館910番教室
		10:00	4号館420番教室
経 濟 学 部	4年 4月4日(木)	13:00	9号館910番教室
		13:00	6号館621番教室
		13:00	
法 学 部			
経 営 学 部			
国際政治経済学部			

### 青山キャンパス・第二部

学 部	登校日	時 間	書類配布場所
第二部 全 学 部	2年 4月9日(火) 3年 4月4日(木) 4年 4月5日(金)	18:00	9号館910番教室

上記の指定された日時に必ず登校し、各種書類の配付を受けた後、引き続いて行われる履修ガイダンスを必ず受けてください。

学年初頭行事については、上記の指定された日時に配付される書類で必ず確認をしてください。

※大学院学生(青山キャンパス)は、大学院事務室掲示板を参照してください。

### 世田谷キャンパス

学 部	登校日	時 間	書類配布場所
理 工 学 部	2年 4月5日(金)	9:30	7号館(講堂)
	3年 4月4日(木)	10:00	
	4年 4月4日(木)	12:40	

### 厚木キャンパス

学 部	登校日	時 間	書類配布場所
文 学 部	2年 4月5日(金)	9:30	※1年次留年生は教務課で書類を受け取った後、「学年初頭行事」での予定を確認してください。
	1年次留年生 4月8日(月)	10:00	
経済学部	2年 4月4日(木)	9:30	※2年生は体育館2階フロア
		10:00	
法 学 部	2年 4月4日(木)	13:00	※2年生は体育館2階フロア
		13:00	
経営学部	2年 4月5日(金)	13:00	
国際政治経済学部	2年 4月5日(金)	13:00	
理工学部	1年次留年生 4月8日(月)	14:00	K102教室

上記の指定された日時に必ず登校し、各種書類の配付を受けた後、引き続いて行われる履修ガイダンスを必ず受けてください。

学年初頭行事については、上記の指定された日時に配付される書類で必ず確認をしてください。

※大学院学生(青山キャンパス)は、大学院事務室掲示板を参照してください。

## 学生証(在籍確認シール)更新について

	日 程	時 間 帯	場 所
<b>青山キャンパス</b>			
昼間部	4月4日(木)・5日(金)・8日(月)	9:30～16:00(11:30～13:00は休止) 16:30～19:30	1号館2階
第二部			
<b>世田谷キャンパス</b>			
2～4年、大学院	4月4日(木)・5日(金)	12:30～15:30	学生ホール
<b>厚木キャンパス</b>			
2年生	4月4日(木)・5日(金)	11:00～13:00	K館
1年次留年者	4月8日(月)	9:30～16:00(11:30～12:30は休止)	学生課

※必ず学生証を持参してください。

※大学院学生(青山キャンパス)は、大学院事務室掲示板を参照してください。

# 就職関係行事のお知らせ

## 青山キャンパス

公務員採用説明会▶



行事	対象学年	日程	時間	場所	備考
エントリーシート対策セミナー	3年	2/6(水)	10:30~12:00	未定	無料・当日申込
面接対策講座		2/6(水)	13:00~14:30 15:30~17:00		
SPI模擬試験		2/7(木)	10:30~12:00		有料・事前申込・定員有り
学内企業セミナー		3/2(土) 3/5(火)	13:00~14:30		
公務員試験対策講座		2/7(木)	15:00~16:30		有料・当日申込
		2/21(木) ~3/15(金)			詳細は掲示参照
	1・2年	3/7(木) ~3/29(金)	10:30~14:30	未定	有料・事前申込(会場は青山キャンパス)

## 世田谷キャンパス(理工学部生・理工学研究科生対象)

行事	対象学年	日程	時間	場所	備考
一般常識対策テスト(第2回)	全学年	1/10(木)	14:45~16:15	4307教室	受験料:1,000円 申込期間:12/12~12/21 申込場所:理工学部就職課
面接対策講座(第2回)	学部3年・院1年	1/16(水)	14:40~16:10	未定	面接時のポイント等の解説、模擬面接の実施
エントリーシート対策講座(第2回)	学部3年・院1年	3/8(金)	11:00~12:30	4307教室	専門家から見た対策のポイントについての解説と資料の配付
面接対策講座(第3回)	学部3年・院1年	3/8(金)	13:45~15:15	4307教室	直前対策と技術面接等の解説、模擬面接の実施
OB・OGとの懇談会(機械・電気)	全学年	3月中旬	10:00~14:30	理工礼拝堂	参加予定企業数15~20社
OB・OGとの懇談会(物理・化学・経工)	全学年	3月中旬	10:00~14:30	理工礼拝堂	参加予定企業数20~30社
就職課からの就職状況説明	学部3・4年、院1・2年	4/4(木)		理工礼拝堂	学部3・4年、大学院生の各履修指導終了後「就職資料」の配付と説明
就職ガイダンス(第3回)	学部4年・院2年	4/4(木)	14:00~14:30	未定	学科・専攻別に実施「就職の手引」を必ず持参「進路力ード」の配付
企業説明会	学部4年・院2年	4/5(金)	9:30~12:00	未定	詳細は就職課掲示板を参照
		4/8(月)	9:30~17:00		
		4/9(火)	13:00~17:00		
		4/10(水)	13:40~17:00		
		4/11(木)	13:00~17:00		
		4/17(水)	14:40~17:00		
		4/24(水)	14:40~17:00		
		6/19(水)	14:40~17:00	未定	詳細は就職課掲示板を参照
企業説明会	学部4年・院2年	6/26(水)	14:40~16:10	未定	詳細は就職課掲示板を参照
就職講演会(低学年向け)	全学年	7/3(水)	14:40~16:10	未定	詳細は就職課掲示板を参照

\*就職関係行事等のお知らせ、追加、変更等は掲示板に掲示しますので、必ず確認してください。また、就職の相談は隨時受け付けけていますので、来室し申し出てください。

## 健康診断について

### 青山キャンパス

場所:7号館2階音楽室

\*○:受診可能日 曜:9:30~10:30、13:30~14:30  
夜:17:30~19:00

所属キャンパス・学年	実施日	4月4日(木)		4月5日(金)		4月8日(月)		4月9日(火)	
		昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜
青山	第一部4年生	○	○		○	○	○	○	
	第一部3年生	○		○		○		○	
	第一部2002年度編入・転部生					○	○	○	○
	第一部再入学生					○	○	○	○
	第二部4年生	○	○		○		○	○	
	第二部3年生	○	○	○	○		○	○	
	第二部2年生		○	○	○		○	○	
	第二部1年生					○	○	○	○
	心理夜間2年生		○	○	○	○	○	○	
	心理夜間1年生					○	○	○	○
	第二部2002年度編入・転部生					○	○	○	○
	第二部再入学生					○	○	○	○
世田谷	4年生	○	○		○	○	○	○	
	3年生	○	○	○	○	○	○	○	
	2年生		○	○	○	○	○	○	
青山・世田谷	大学院2年生以上	○	○		○	○	○	○	
	大学院1年生					○	○	○	○
	科目履修生・交換留学生					○	○	○	○

### 厚木キャンパス

場所:体育館1階

#### 【日程】

4月4日(木)、4月5日(金)

#### 【受付時間】

9:30~10:30、13:30~14:30

#### 【対象学生】

昼間部2年(※理工学部2年は、青山キャンパスにて受診してください)

#### 【日程】

4月9日(火)、4月10日(水)

#### 【受付時間】

9:30~10:30、13:30~14:30

(但し10日は15:00まで)

#### 【対象学生】

昼間部1年(学部・学科指定になっていないので掲示板で確認してください)

※昼間部1年次留学生は、1年生の健康診断日に受診してください。

\*視力検査のため、メガネ、コンタクト使用者は必ず持参のこと

\*女子は、レントゲン検査の際、無地に近いTシャツを着用、または持参してください。

\*掲示板及び学生情報サービスを参照し、必ず受診してください。

# アジアの政治

天兒 慧

国際政治経済学部国際政治学科教授

—新世紀のアジアと日本の関わりを考える—



1947年岡山県に生まれる。  
1971年早稲田大学教育学部卒業。1974年東京都立大学(修士課程)修了、法学修士。1981年一橋大学(博士課程)修了、社会学博士号取得。1981-90年琉球大学助教授。この間86年より2年間、外務省専門調査員として在北京日本大使館に勤務。共立女子大学国際文化学部教授を経て、現在青山学院大学国際政治経済学部教授。

秋もたけなわ、10月の上旬、初めて降りた郡山の地で、果たして「アジアの政治」について、どれだけ参加した方々が関心を持っておられるか、いささか不安をもちらんながら演壇上に立った。とりわけ9月11日の世界貿易センター、ペンタゴンの連続爆破テロ事件以来、世界の衆目はアフガニスタンの動向に集まっていた。もちろんそれもアジアの一部ではあるが、それら自体を語る能力は私にはない。そこで開き直って、台頭する中国をどう認識するか、朝鮮半島や中台関係の動静を如何に把握するか、といった問題は21世紀の日本とアジアの関係を考える上で極めて重要であると力説した。中国認識についてのポイントは、低迷する世界経済の中で「一人勝ち」を続ける中国の経済成長、「大国主義的」外交姿勢、軍事力の継続的な增强などから高まる、いわゆる「中国脅威論」をどう考えるかということであった。確かに20年来の改革開放路線の推進で高度成長を続け、核実験やミサイル実験も行い、台湾を威嚇したり、領土・領海紛争でも強気の姿勢を崩していない。が、冷静に事態を見れば、国内において貧富の格差、失業、環境汚染、資源・食糧問題などが深刻化しつつあり、先進国などからの外資・先進技術の受け入れをいっそう強めなければ、事態の解決にメドが立たない。さらにWTO加盟によって国際ルールの規制が強化されるなど、一方的に中国が「威圧的」になることなどありえない。要するところ基本的には「国際協調主義」「平和的環境」を重視するしか、中国の展望は見えてこないということであり、実際に中国が国際秩序を破壊する脅威になることは困難であろう。

朝鮮半島問題、台湾問題では、無論それぞれに固有の特性はある。朝鮮半島においては、米国との直接交渉にやや重きを置く金正日の北朝鮮に対し、南北直接交渉で事態の進展を狙い、「太陽政策」を展開してきた金大中の韓国といった基本構図がある。そして大国の

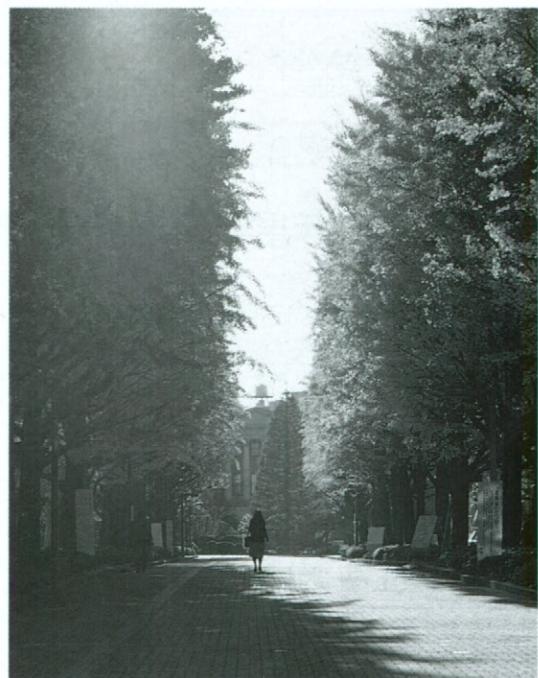
思惑は揺れ動いている。ブッシュ大統領は登場以来、北朝鮮を「ならず者国家」の1つとみなして強硬な姿勢をとりつつあり、北朝鮮は自らのイニシアチブをとりにくくなっている。中国は韓国との友好関係を維持しつつ、金正日を中国に迎えるなどの北との関係修復にも力を入れてきた。金大中自身も韓国内での経済低迷などで一時の高い人気も陰り始め、2002年12月の次期大統領選挙も見え始めてきたため、対北朝鮮交渉の動きも鈍ってきた。

これに対して、中台関係では経済交流がますます活発化し、経済の相互依存関係はもはや相手抜きには考えられない「パートナー」とも言葉べきものとなった。にもかかわらず、統一への政治対話はいっこうに進まない。「台湾アイデンティティ」の高まり、民主化の進展などが依然共産党体制を続ける中国との根本的溝をつくっている。しかし、中国は1996年3月の台湾初の「総統直接選挙」の時のような軍事的威嚇はとりにくくなっている。つまり現段階においては朝鮮半島も中台関係もある種の「こう着状態」にはいっており、基本的にはいずれも「非統一、非敵対、互恵共存」の枠組みが構造化し、これによって東アジア地域が急速に不安定化できない状態になったという点が私のポイントであった。

ではこうした東アジア情勢の中で、日本はどうすべきか。もともと国際的な見通しに立った「外交戦略がない」といわれてきた日本が、田中真紀子外相と外務省高官との「隠微な確執」によってますます悲惨な事態に陥っている。反テロリズムの国際的高まりの中で、「9月11日」以来の国際情勢をどのように読み込み、見通しを立て、その中で日本は何をなすべきかといふ腰の座った議論が国内であまりなされない。見通しを考えないままに「自

衛隊を派遣すべきか否か」「武器を携帯すべきか否か」「米国のアフガン攻撃を支持すべきか反対か」などといった局部の議論ばかり先行している感がある。東アジアにおいても台頭する中国を冷静に腰を据えて見定め、どういう付き合いをすべきかをじっくりと考えることが極めて大事な段階に入っている。日本が強調すべきは、対立・矛盾の混在する情勢においてとりわけ声を大にして「どこの国とも仲良くする」徹底した「国際協調主義路線」の推進である。中台関係において私はこれを、中国とも台湾とも仲良くしたいと言い続ける「積極的曖昧主義」と自分で命名した。

以上のような内容の講演であったが、聴衆の皆さんのがんばりに高かった。多くの中小企業を抱える当地にとって、中国への工場移転は不可避でありながら、同時に「産業の空洞化」に頭を痛めるというデilemmaにあり、中国問題への関心は極めて高いということであった。



## 高校1・2年生のための新キャンパス説明会開催

11月11日(日)青山キャンパスのガウチャー・メモリアル・ホールにおいて、2003年4月の相模原キャンパス開学と同時に1年次として就学する予定の高校生とそのご父母などを主な対象とした「高校1・2年生のための新キャンパス説明会」が開催されました。半田学長の挨拶に続いて、西澤副学長による相模原キャンパスのCG映像を中心とした詳細な説明や進学相談会などが行われ、早期より本学に関心をもつ高校生とそのご父母約800名が来場しました。



## 成績通知について

今年度の成績通知書は、卒業決定者以外の学生は3月中旬に保証人住所宛へ郵送されます(除大学院)。卒業決定者については、学位授与式当日、学生本人に配付されます。

また、2002年4月のオリエンテーション開始日より学内情報端末から各自成績通知書を出力し、確認することができるようになります(除大学院)。

## 卒業・進級に関するお知らせ

対象	日程	時間	場所
<b>卒業・修了決定者氏名発表</b>			
専門部(除理工学部)	3/8(金)	9:30	青山キャンパス正門脇掲示板
第二部	3/8(金)	16:00	青山キャンパス正門脇掲示板
理工学部・理工学研究科	3/8(金)	9:30	世田谷キャンパス教務課掲示板
大学院(除理工学研究科)	研究科により発表日が異なるので大学院事務室掲示板で確認のこと		
<b>卒業見込決定者氏名発表(理工学部のみ)</b>			
理工学部	3/9(土)	10:00	世田谷キャンパス教務課掲示板
<b>進級決定者氏名発表</b>			
厚木キャンパス在学生	3/8(金)	9:30	厚木キャンパス各学部掲示板
第二部2年生	3/8(金)	16:00	青山キャンパス正門脇掲示板

※電話による問い合わせには一切応じおりません。

※卒業年次生は、必ず2月28日(木)までに図書を図書館へ返却してください。

## 2001年度学位授与式・卒業礼拝

2001年度学部卒業生及び大学院修了生を対象として、下記のとおり「学位授与式」が挙行されます。これに先立ち、3月25日(月)10:00~11:00に青山学院講堂(青山キャンパス)において、卒業礼拝が挙行されます。

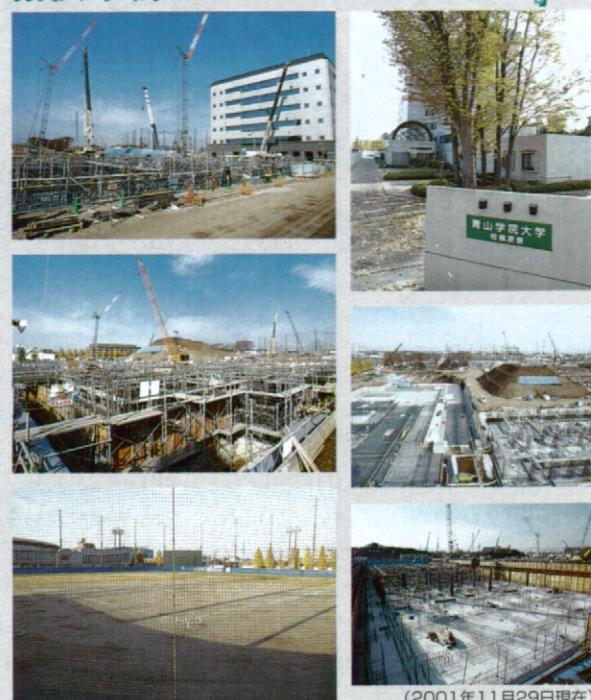
	学部	大学院
期日	3月25日(月)	3月27日(水)
時間	13:00~	13:00~
場所	青山学院記念館(青山キャンパス)	青山学院講堂(青山キャンパス)

## AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人宛に送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設。「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュースを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けております。更に「Weekly AOYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニュースレター」として学内のAGUニュース専用スタンドにて配布しています。

なお、「Weekly AOYAMA」は、2月より大学が入試期間となるため、隔週でニュースを更新いたします。4月より

## 相模原新キャンパス PhotoGraph



## 青山キャンパスATMについて

間島記念館1階に三井住友銀行のATM(現金自動預け払い機)が設置されています。キャッシュカードによる現金の引き出しの他、入金や振込、通帳による利用等も可能。使用は平日のみ9:00~17:00です。



### シリーズ大学探訪

⑨

## アーサー・D・ベリー

1895(明治28)年シラキュース大学、1898(明治31)年ドラー神学校を卒業。来日までニュージャージー州で牧師を務め、1902(明治35)年来日。1905(明治38)年に青山学院神学部教授となり、1908(明治41)年から1931(昭和6)年まで神学部長の職にあって、教育の充実と施設拡充に力を尽くしました。関東大震災により倒壊した旧校舎に代わり新築となった神学部校舎(現本部の建物／ベリー・ホール)は、彼を中心とした募金活動の努力が実ったものです。1915(大正4)年にはシラキュース大学から名誉神学博士号を授与されています。



通常どおり週ごとに更新いたしますので予めご了承ください。

\*保証人の方は、お手数ながら本誌を学生へ回付してくださいますようお願いいたします。

AGUニュースのバックナンバーはこちらでご覧ください。

AGU News on Web  
<http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>